

# 景気観測(LOBO)

《2021. 4~6月》

令和3年度 第1四半期

日立商工会議所  
情報化委員会

## I. 調査概要について

### (1) 調査期間並びに調査基準

調査期間	四半期毎に実施、時期としては7, 10, 1, 4月
調査基準	四半期毎の景況感を対前年同期と比較

### (2) 調査対象並びに回収状況

業種	調査対象件数	回収件数	回収割合(%)
製造業	25	23	92.0%
小売業	30	22	73.0%
建設業	20	18	90.0%
サービス業	25	17	68.0%
計	100	80	80.0%

### (3) 調査内容並びに調査方法

調査項目	業界全体の動向と関心事項、売上高の推移と変化要因 採算・仕入/販売単価・従業員数・資金繰りの変化状況
調査方法	FAX・インターネット活用

### (4) 調査結果の採用

商工会議所として、景況の判断資料とすると共に一般会員にも「かいぎしよNEWS」での掲載を中心に景気動向として発表。協力事業所に対しても結果送付。

◎LOBOとは「CCI(Chamber of Commerce and Industry)-Quick Survey System of Local Business Outlook」(商工会議所早期景気観測)からとった略称。

◎DI値(景気判断指数)について

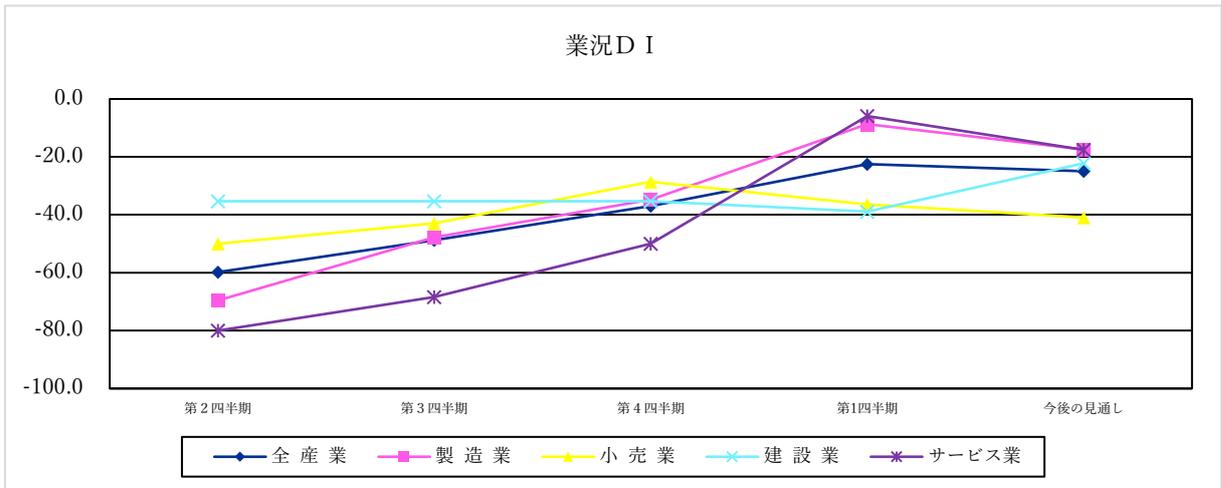
- ・DI値は調査項目についての景況判断状況を表す。(▲で下向き)
- ・強気、弱気等景況感の相対的な広がりを意味する。
- ・ $DI = (\text{増加} \cdot \text{好転} \cdot \text{不足等の回答割合}) - (\text{減少} \cdot \text{悪化} \cdot \text{過剰等の回答割合})$

## II. 業況判断について

- 全産業の業況は、▲22.5と前回調査時(▲37.0)から14.5ポイントの回復。今後の見通しでは▲25.0(前回調査時▲34.6)と9.6ポイントの回復。
- 製造業では、▲8.7ポイント(前回調査時▲34.8)と26.1ポイントの回復。今後の見通しも、▲17.4(前回調査時▲26.1)と8.7ポイント回復。
- 小売業では、▲36.4と前回調査時(▲28.6)より、ポイントの7.8ポイント悪化。今後の見通しは▲40.9(前回調査時▲47.6)より6.7ポイントの回復。
- 建設業では、▲38.9と前回調査時(▲35.3)から3.6ポイント悪化。今後の見通しは▲22.2と前回調査時(▲23.5)より1.3ポイントの回復。
- サービス業では、▲5.9と前回調査時(▲50.0)から44.1ポイント回復。今後の見通しは▲17.6と前回調査時(▲40.0)より22.4ポイント回復。

(1)業況DIの推移とキーワード

	令和2年度			令和3年度	
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し (7~9月)
全産業	▲ 59.8	▲ 48.8	▲ 37.0	▲ 22.5	▲ 25.0
製造業	▲ 69.6	▲ 47.8	▲ 34.8	▲ 8.7	▲ 17.4
小売業	▲ 50.0	▲ 42.9	▲ 28.6	▲ 36.4	▲ 40.9
建設業	▲ 35.3	▲ 35.3	▲ 35.3	▲ 38.9	▲ 22.2
サービス業	▲ 80.0	▲ 68.4	▲ 50.0	▲ 5.9	▲ 17.6



	キーワード		
	第1位	第2位	第3位
製造業	新型コロナウイルス	材料費高騰	カーボンニュートラル
小売業	新型コロナウイルス	日立のお買い物事業	ワクチン接種
建設業	新型コロナウイルス	ウッドショック、資材高騰	ワクチン接種
サービス業	新型コロナウイルス	軽油価格上昇	ワクチン接種

《全国との比較》

	令和3年度第1四半期		今後の見通し(7月~9月)	
	全国(6月)	日立	全国	日立
全産業	▲26.7	▲22.5	▲26.8	▲25.0
製造業	▲14.6	▲8.7	▲18.4	▲17.4
小売業	▲41.8	▲36.4	▲35.7	▲40.9
建設業	▲19.8	▲38.9	▲22.7	▲22.2
サービス業	▲30.6	▲5.9	▲29.6	▲17.6

## (2)売上高・採算・仕入単価・販売単価・従業員数・資金繰りの推移(DI値)

## (売上高)

	令和2年度			令和3年度	
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し (7~9月)
全産業	▲ 57.3	▲ 47.5	▲ 27.2	▲ 15.0	▲ 16.3
製造業	▲ 73.9	▲ 47.8	▲ 8.7	▲ 4.4	8.7
小売業	▲ 31.8	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 13.6	▲ 40.9
建設業	▲ 47.1	▲ 35.3	▲ 23.5	▲ 27.8	▲ 22.2
サービス業	▲ 75.0	▲ 73.7	▲ 45.0	▲ 17.7	▲ 11.8

## (採算)

	令和2年度			令和3年度	
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し (7~9月)
全産業	▲ 56.1	▲ 51.3	▲ 34.6	▲ 26.3	▲ 33.8
製造業	▲ 73.9	▲ 56.5	▲ 34.8	▲ 21.7	▲ 30.4
小売業	▲ 36.4	▲ 28.6	▲ 38.1	▲ 31.8	▲ 36.4
建設業	▲ 29.4	▲ 41.2	▲ 17.7	▲ 33.3	▲ 38.9
サービス業	▲ 80.0	▲ 78.9	▲ 45.0	▲ 17.7	▲ 29.4

## (仕入単価)

	令和2年度			令和3年度	
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し (7~9月)
全産業	▲ 15.9	▲ 20.0	▲ 43.2	▲ 46.3	▲ 41.3
製造業	▲ 8.7	▲ 26.1	▲ 52.2	▲ 43.5	▲ 30.4
小売業	▲ 31.8	▲ 19.1	▲ 47.6	▲ 40.9	▲ 54.5
建設業	▲ 29.4	▲ 29.4	▲ 41.2	▲ 55.6	▲ 50.0
サービス業	5.0	▲ 5.3	▲ 30.0	▲ 47.1	▲ 29.4

## (販売単価)

	令和2年度			令和3年度	
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し (7~9月)
全産業	▲ 13.4	▲ 13.8	▲ 2.5	2.5	▲ 1.3
製造業	▲ 8.7	▲ 4.4	8.7	13.0	0.0
小売業	▲ 18.2	▲ 19.0	0.0	▲ 9.1	13.6
建設業	0.0	5.9	▲ 11.8	0.0	▲ 5.6
サービス業	▲ 25.0	▲ 36.8	▲ 10.0	5.9	5.9

## (従業員数)

	令和2年度			令和3年度	
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し (7~9月)
全産業	3.7	8.8	4.9	2.5	▲ 1.3
製造業	▲ 30.4	▲ 13.1	▲ 4.3	▲ 8.7	▲ 8.7
小売業	13.6	19.0	14.3	9.1	▲ 9.1
建設業	35.3	29.4	5.9	22.2	27.8
サービス業	5.0	5.3	5.0	▲ 11.8	▲ 11.8

## (資金繰り)

	令和2年度			令和3年度	
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し (7~9月)
全産業	▲ 31.7	▲ 32.5	▲ 22.2	▲ 23.8	▲ 26.3
製造業	▲ 39.1	▲ 30.5	▲ 13.1	▲ 21.7	▲ 21.7
小売業	▲ 27.3	▲ 23.8	▲ 42.9	▲ 31.8	▲ 36.4
建設業	▲ 11.8	▲ 23.5	0.0	▲ 22.2	▲ 33.3
サービス業	▲ 45.0	▲ 52.6	▲ 30.0	▲ 17.6	▲ 11.8

## (3)業種別概況

業種	概況
製造業	<p>業況感は、昨年第1四半期より回復基調にある。ただし、今期の比較対象となる前年同期は、過去最低の数値であり、売上増も、コロナ禍であった一年前に比べれば増加、コロナによる受注減による一時的な反動による、等の声もあり、注意が必要。また、原材料費が高騰するなか、取引単価への転嫁ができないという声も。</p> <p>個別では「コロナウイルス感染の影響と半導体生産の回復が大きく影響してくる。オリンピック後の景気動向に注視したい。自動車業界では次世代車両への転換と、CO2削減に向けた取り組みが、具体的にどのように進むのか懸念する(輸送用機械器具製造業)」「自動車関連では、EV・FCVが増加、医療用機器ではコロナによる減少はなし(輸送用機械器具製造業)」「下期に向け、中国向け案件が多少アップする計画(電気機械器具製造業)」「重電関連の受注が低迷している中、大型特殊車両の部品が増産になり、作業が増えてきた。またプラント関連の設備の受注も増えてきている(電気機械器具製造業)」「コロナ禍によるインフラ関連投資の縮小等により、重電大手からの発注量が減少している(電気機械器具製造業)」「原材料のUPと製品単価のUPの差が大きい。製品単価のUPがままならない。仕事量については少しずつ増加している(金属製品製造業)」などの報告があった。</p>

<p>小 売 業</p>	<p>売上では回復を見たものの業況感としては悪化。仕入価格の値上がりの報告あり。販売形態や取扱商品により、影響が異なる点はあるものの、客数が戻らない影響が大きい。アフターコロナにおいて、この傾向が定着することを踏まえ、変化に対応しなければならないとの声も。</p> <p>個別では、「外出を控える傾向がある関係で、高単価の酒やおつまみの販売が好調。また新硬貨発行に伴う設備投資をどうするか検討中(食料品小売業)」「コロナ禍の影響はまだあるものの通常の水準が維持できている。持ち帰りに特化した形態が功を奏したようである。しかし、お祭りや町内行事のような各種イベント中止の影響は大きい(食品製造小売業)」「小麦粉、油脂、輸入品、チョコレートなど原材料の相次ぐ値上げをどう商品の価格に転嫁していくか、年後半にかけて商品の値上げが続くと予想される。(菓子製造小売業)」「引き続き商品・部品の入荷が滞っている。半導体の不足による収益悪化が心配である(自動車小売業)」「全国中学校総合体育大会が、笠松運動公園と水戸総合運動公園及び那珂総合運動公園で開催。県スポーツ用品協同組合で売店を出す(スポーツ用品店)」「年初から原油価格の上昇、燃料単価が連続して上昇している。石油製品を含めた関連資材もコスト上昇が続いており、今後も上昇する見込み。給油所の人員不足は慢性的(燃料小売業)」などの報告があった。</p>
<p>建 設 業</p>	<p>売り上げは緩やかな回復傾向だが業況は横ばい。建築資材の高騰や不足により、工事の遅延が出ているほか、消費の落ち込みを心配する声が多数聞かれた。</p> <p>個別では、「公共工事、特に国土交通省関係の工事が順調に発注されている。民間工事は、特に建築工事において価格競争が厳しくなっている。ウッドショック、木材の世界的な不足と価格高騰、コンパネやセパ、鋼材、アスファルトなどの建築資材の値上げが続き、採算悪化や工事遅延の要因となっている。(総合建設業)」「コロナの影響はほとんどなし(設備保守業)」「コロナ禍の影響を大変心配していたが、大きな落ち込みもなく、例年並みの収益がありまっとうしている。従業員や協力会社員の感染が不安材料であり、早期にワクチン接種が行われて欲しい(総合建設業)」「技術者の採用難の状況が続いている。新卒男性社員の確保も厳しい(総合建設業)」などの報告があった。</p>
<p>サービス業</p>	<p>業況で大きく回復を見たが、悪化から不変に転じたのが主な要因であり、特に飲食・旅館業では苦戦が続く。全国的にも、飲食業でテイクアウトに対応して売り上げを確保した一部事業所が好転した報告があるものの、宴会・観光の落ち込む宿泊業が厳しい。</p> <p>個別では、「物流業は下げ止まり感があるものの、半導体製品の生産が需要に追いついていないことから自動車メーカーを中心に生産が回復しておらず、輸送物量の増加にはつながっていない。交通業はワクチン接種が進んでおらず人の移動が戻っていないことから引き続き厳しい状況が継続している。ワクチン接種の実施率が上がってくるまで、状況の改善は見込めない。(物流業)」「トラック運賃単価が低いまま値上げ要望が通らない。軽油価格も上昇し、運転手は低賃金では集まらない(物流業)」「フェードカット、アイロンパーマなどのバーバースタイルが30代から注目されており、業界として好傾向。(理容業)」「今後の業績について、上昇・下降が読みづらい状況。ワクチン接種の推移により今後の業績が大きく変化する(ホテル業)」等の報告があった。</p>